

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら八幡西 吉祥寺町教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ~ 令和7年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数)	18人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ~ 令和7年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 30日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童に対して、支援員が充分な配置がされており、行き届いた支援や対応が可能である。	利用児童数に対して、多く職員を配置している。 個別対応が必要な児童に対して、担当職員を決めた対応を行っている。	児童の様子を細部まで観察し、行き届いた支援を提供していく。
2	ハウスルールの共通理解のもと、それぞれの職員の特色に合わせて、活動に取り組んでいる。	ハウスルールの研修を行っている。ハウスルールが定着出来るよう朝礼、終礼でその日に支援についてふりかえりを行っている。	ハウスルールの見直し、新しいルールの追加についても検討していく。
3	複数の子どもが少人数のグループで活動しながら、社会性・コミュニケーション・感情調整等を育んでいる。毎日の終礼でSSTを行っており、場面に相応しい行動を学んでいる。	グループ活動の中で、役割や目標を決めて活動に参加してもらう。 SSTは様々な場面や事例を提供している。また児童にどういう行動をとれば良いのか、ひとりひとりに応えてもらう。また職員がデモンストレーションをしてイメージが湧きやすいように工夫している。	お出掛けや社会見学等の機会で実践の機会を経験していく。 またその時の行動について振り返りを行い、向上に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や地域住民と交流の機会が少ない。	コロナウィルスの感染も重なり、交流が出来ない時期が長くあった。 地域のイベントや活動に出向いて行く。 当事業所のイベント等に、地域の方を招待していく。	地域のイベントや活動に出向いて行く。 当事業所のイベント等に、地域の肩を招待していく。
2	保護者との交流が半年に一度の面談の機会位である。	コロナウィルスの感染も重なり、交流が出来ない時期が長くあった。 保護者会等の開催も検討していたが、さまざまな家族形態や仕事で出席が難しい家族もあり、開催までには至らなかった。	その時の感染症の状況次第ではあるが、家族会や保護者会を開催を検討していく。
3	職員によって支援に対しての思いや考え方があり、統一した支援が行えていない時がある。	児童発達支援管理責任者を中心に、職員会議等の場で話し合い検討していく。 ハウスルールの資料を用い、再度職員で大切にしたい療育に対する考え方を確認する。	各職員が意識づけ出来るように、朝礼、終礼で課題となった支援に対しての話し合いを行っていく。 意識高く業務遂行出来る様に、各職員に目標設定を行う。またその目標に対し、管理者、児童発達支援管理責任者を中心に面談を行い、振り返りを行う。